
透析医療における音楽療法に携わって - 穿刺時痛軽減のために

医療法人衆和会 長崎腎病院

○川渕まり子 樋口美由紀 白井美千代 丸山裕子 北村峰昭 原田孝司 西野友哉 船越 哲

【背景】

音楽療法とは精神医学に基づく治療法であり、補完代替療法とは全く異なる医学体系である。その理論は”distraction”により痛みに対する意識を逸らす効果とされており、今回我々は穿刺時痛軽減を目的に、透析前に患者にヘッドフォンで音楽を聴かせる方法を試みた。

【目的】

音楽療法に関わったスタッフの施行錯誤を紹介する。

【対象・方法】

認知症がなく、本療法の理解力のある当院外来維持透析 8 名を対象とし(男性 4 名・女性 4 名、平均年齢 64.6 ± 7.4 歳、平均透析歴 12.4 ± 10.1 年)、透析前の 10 分間に、(1) 無音、(2) ホワイトノイズ、(3) 治療音楽:モーツァルトのピアノ曲 (K448 番)を、合計 4 週間のクロスオーバー法で聞かせ、タブレット端末で痛みと不安に関する解答を得、ストレスのマーカーとなる唾液アミラーゼを各週 3 回目に測定した。

研究担当のスタッフは 2 名に固定し、透析室の業務内で施行した。

【結果】

対象全員が研究を完遂した。最も苦慮した点は、開始前に研究を行うため、終了時間に影響のないよう配慮したことであった。

【考察】

今回の音楽療法施行に当たっては、治療の概念や解答法がやや複雑であり、担当スタッフを限定したこと、治療の根幹である透析治療に影響を与えないことを最優先したことが重要なポイントと考える。